

# チェルノブイリ通信

2007年7月30日

No. 70

発行 NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク 事務局

連絡先 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム内

TEL・FAX 093-203-5282

E-mail jimur@cher9.to

URL <http://www.cher9.to/>

郵便振込口座 01770-1-65328

NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク



放射能汚染のため避難勧告がだされたベラルーシの村にて。  
しかし、今もそこには子どもの姿が…。あどけない笑顔がこころに痛い。

\*チェルノブイリ医療支援報告  
10年の変化、医療支援のこれまでと、これから

\*手紙がつなぐ子どものこころ  
ベラルーシの少女ナターリヤと、日田市の小学生たちとの交流

\*事務局での研修で学んだこと

\*チェルノブイリチャリティライブ ～2007～  
実行委員の皆さんに、ききました♪

\*チェルノブイリ医療支援ネットワーク  
事務局活動報告日記

\*理事研修合宿報告レポート  
～「理念づくり」ワークショップを行いました～

\*チェルノブイリ医療支援ネットワークへの  
募金方法のご案内

# 10年の変化

医療支援のこれまでと、これから

聞き手・報告/矢野宏和(チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事長)

2007年10月に予定されているベラルーシでの甲状腺がんの検診。

1997年に行われた第1回から数えると、今回で通算16回目となる。

この間の、10年の継続。

そのなかで、学んだこと、分かってきたこと。そして変わってきたこと。

それを振り返りつつ、今回、10月に行われる検診の意味を探る。



チェルノブイリへの医療支援に取り組む  
山田英雄さん

■医療支援は、劇的なものではなく、

日常的なものとして

1997年、第1回目のベラルーシでの甲状腺がん検診の時のことを、山田さんは目を細めつつ、こう振り返る。

「日本の医師の検診が受けられるということで、もう病院の廊下に患者が溢れちよったんじゃから。その頃は、旧ソ連が崩壊した後の経済的混乱で、以前は定期的に実施されていた地方病院への検診はまともに行われなくなっていたんよ。

また、検診を行うための設備や技術も不十分だったから、日本の、特に原爆被爆者の検診、治療の経験を積んでいるヒロシマの医師への期待が高かったんよ。」

ベラルーシでの医療支援開始当初、日本の専門医による甲状腺がん検診は、医療環境が整っていないベラルーシの片川舎において、「劇的」なものだった。あちこちから医師も見学に来るし、テレビ局のカメラもこぞって検診の様子を撮影した。

その画面の中心には、日本の医師がおり、実際に検診は、医療器具の設置からすべて日本の医療関係者が行っていた。

山田さんは言う。「病院の方からも、とにかく日本の検診システムを学びたいという強い要望があった。」

日本の医療関係者による、特別な検診。それが、10年前のチェルノブイリ医療支援ネットワーク(当時の団体名はチェルノブイリ支援運動・九州)による検診の実状だった。

「いずれは、現地の人たち自身の手で検診を行えるようにすることが大事。」と、山田さんは当初から幾度も繰り返していたが、正直なところそれは一つの理想ぐらいにしか私は思っていなかったし、日本の医師が活躍する姿に感動と満足感を、私は確かに抱いていた。

支援を必要とされている場所で、特別な技能を持った医師を派遣し、人の命を救う。それこそが医療支援。それこそが

国際協力。人の良心が創り出す感動的な取り組みなのだ。

しかし、そうした劇的な取り組みの、さらにその向こうを見据えなければ、活動の継続は生まれない。10年を経た今、私はそう思う。

「現地の医師の手で検診を」と繰り返し山田さんは、検診プロジェクトを立ち上げる前から、そのことを分かっていた。

だから、検診のあり方について次のように語る。「甲状腺の検診は、劇的なものでなく、地道なもの。あって当たり前のものになっていけばいい。」



甲状腺ガン検診を行う武市医師とアルツール医師

## ■そして、10年が過ぎ

10年の継続の中、変化は起きた。

当初、日本の医師によって行われた「特別」な検診は、現地の医師によって行われ、現地の医師によって広められつつある。

山田さんは、昨晚ベラルーシから送られてきたという1枚の書類を私に渡す。

「これは、現地の病院から、チェルノブイリ医療支援ネットワークに要望があった医療器具のリスト。今、現地で必要とされる医療器具が書かれている。」

そのリストには、次のものが記されていた。エコー吸引穿刺アクセサリ、吸引穿刺用注射針、吸引穿刺後に貼る絆創膏。

いずれも、現地の医師が検診を日々、行っていくために必要なものばかり。

「触診→エコー診断→吸引穿刺→細胞診」という、日本の医師により伝えられた検診スタイルが、日常的に現地で行われていることを示している。

現地から日本側に要望してきた医療器具の中で、唯一高価なものだったのが顕微鏡の対物レンズ。これも山田さんによると「吸引穿刺後の病理で、細胞を見る医師が増えているから、必要なんじゃない。」

## ■様々な変化のなかで

私たちチェルノブイリ医療支援ネットワークがベラルーシでの医療検診に取り組みはじめて10年。そしてチェルノブイリ原発事故が起きてから20年以上の歳月が流れる。その間、いろいろなことが変化してきた。

以前はまともに電話が通じなかった地域でも、携帯電話で日本に連絡できるようになり、いわゆる「馬シヨンビール」しか飲めなかった酒屋でも、美味しい生ビールが飲めるようになり。総じて、ベラルーシの都市部における生活水準は向上してきた。

一方で、人々のチェルノブイリへの関心は薄れていくという変化もある。それは、ベラルーシでも日本でも同様のようだ。

その結果、日本では募金の額も減っていき、当初は年2回実施していた甲状腺ガン検診は、年1回になった。

しかし、それを補うかのようにプレスト州立内分泌診療所のアルツール医師を中心に検診技術は受け継がれ、かつ向上していくという変化も生まれている。今では、アルツール医師は、プレスト州立内分泌診療所の所長に就任し、甲状腺ガンの早期発見に尽力している。

甲状腺ガンの多発する年齢は、小児から20歳代の若者たちへと移行し、その対

応も必要になっていく。

こうした諸々の変化のなかで、私たちチェルノブイリ医療支援ネットワークの医療支援はどのように変化させていくべきか？

山田さんは言う。「現地の医師のレベルをさらに上げていくことが、大きな意味を持つてくる。日本の医療技術、知識を学ぶシンポジウムは、今年10月に行われる検診でも開催されるけど、日本の専門医から直接話を聞く機会は、ベラルーシ国内では珍しいこと。現地の医師には大きな刺激になりますね。」

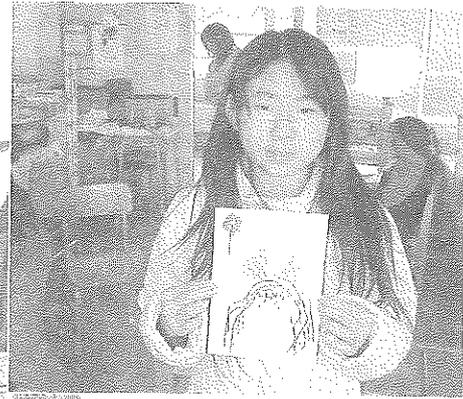
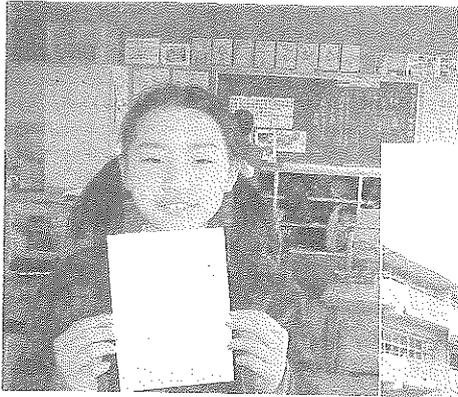
さらに検診の内容についても「特に女性においては甲状腺、乳腺、子宮といった器官は、ホルモンが深く関係している。それらを含めた総合的な検診を現地のアルツール医師たちは取り組もうとしている。その取り組みをどうサポートしていくか。この度、10月に行われる検診のなかで、一緒に考えていきたい。」と、今秋実施されるベラルーシでの16回目となる検診の課題を山田さんは語ってくれた。

チェルノブイリ医療支援ネットワークによる国際医療支援が、最終的にベラルーシに残すものは何なのか？これから、現地の患者、そして医師にスポットを当てて、その変化を追っていきたい。

# 手紙がつなぐ子どもたちのこころ

ベラルーシの少女ナターリヤと、日田市の小学生たちとの交流

報告／小山浩一（チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事、小学校教諭）



ベラルーシのナターリヤから届いた手紙を喜ぶ日田市の子どもたち

大分県日田市内の小学校で、チェルノブイリを伝える授業にとりくんでいます。

昨年は、担任ではなかったのですが、総合学習をまかされた5年生に、ベラルーシの現状や支援活動の様子を伝えました。とくに04年のスタディツアーで会った「のぞみ21」のナターリヤさん・ステパンさんの孫、ナターリヤのことを紹介しました。ナターリヤのお母さん、ニーナさんにもそのツアーで会っているのですが、次の年にニーナさんは胃ガンで亡くなり、05年のツアーの時には、おばあちゃんたちと悲しみの中で暮らすナターリヤに再会しました。「何千キロも遠くのナターリヤだけど、みんなで励ましのたよりを送ろう。」と、検診団の一行に5年生からのたよりを届けてもらいました。ベラルーシなんて聞いたこともない子どもたちですが、私が自分の目で確かめてきた話や写真・ビデオで、ナターリヤはみんなの心の一部になっていきました。

その後、検診団が持ち帰ってくれたナターリヤさんのビデオレターやナターリヤの絵をみんなが喜んでくれ、教室や廊下に掲示しました。

昨年度末に届いたナターリヤからのたよりにとはとびきりの感激でした。今回は8名だけでしたが、個人宛のものだったので、ローマ字で名前を書いて送っていたのですが、8名に宛てた絵だよりが届いたのです。

絵だよりをもらった子たちは大喜び。おばあちゃんがナターリヤに描かせてくれたのでしよう。検診団の滞在時間の関係で残りの子たちは残念でしたが、次回に期待したいと思います。

さっそく、たよりの届いた子どもたちがナターリヤのたよりを持った写真を撮り、お礼のたよりを添え、しかも今回は、チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事でロシア語通訳者でもある山口さんに翻訳をしてもらって郵送することにしました。

6年生になった36人のこの子たちを、今年、担任しています。「日本の子ども」ではなく、ナターリヤと名前と名前がつながった子どもたち。これからも励まし合う関係を深めていけるよう支援していきたいと思っています。

経営面でも厳しい状況にある「のぞみ21」ですが、日本の子どもたちからの気持ち少しだけでも支えになればと願っています。



ナターリヤちゃん

研修を終えての感想

# やるべき仕事は、医療現場以外にたくさんある

報告／宮園 恵（福岡教育大学3年生）



事務局で実地研修を行った宮園さん

こんにちは。私は2週間、「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」の事務局で実地研修に参加させて頂きました。私が、ここを習先に選んだ理由は、ボランティアに興味があったからです。

それは、両親の影響が大きいと思います。街で医療支援などの募金のお願いを見ると、父も母も必ず募金をしていました。幼少の頃から、そのような光景を見ていたので、ボランティアというものは、私達がやってあげているのではなく、やるのが普通だと思ってきました。しかし、ボランティアに興味があるけれど、具体的には何をしたらいいのかかわからず、只々、過ごしてきました。そんな中、大学の授業の一環であるインターンシップにおいて、NGOの仕事に関わる、チェルノブイリ医療支援ネットワークで、私に何かできることはないかと思ひ、ここを選びました。

実習を開始する前は、NGO団体とは、現地において活動を行なっているのだと思っていました。しかし、実際は現地における活動

は、NGO団体の活動の氷山の一角に過ぎないのだという事がわかりました。現地における活動の背景には、日本で募金をお願いしたり、講演を行なって多くの人に現地の状況を伝えたり、医師の方々と連携して、現地の医師を育てたりと、ここには書ききれないほどたくさんのお仕事がありました。私が今まで、ボランティアに興味がありながらも、何もする事が出来なかったのは、NGO団体の現地における活動しか知らなかったからだと思います。海外に行かず、日本でもNGO団体の活動に参加できるし、自分にやれる事はいくらでもあるのです。全てはつながっているのです。どんなに小さな事でもいいので、自分にできる事を精一杯やる事も、ボランティアにつながるのです。この事が、私が実習で学んだ事でした。

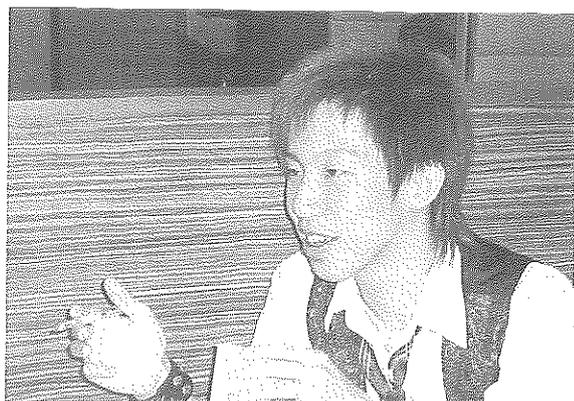
私が実習を開始して2H目に、チェルノブイリ医療支援ネットワークの理事の方が中学校で講演をされるという事で、そのお手伝い兼チェルノブイリ原発事故についての勉強をさせて頂きに行きました。実習を始めてもまだ、チェルノブイリ原発事故の事について、私はほとんど何も知らない状態だったので、とても勉強になりました。

その中学校が講演を依頼した目的は、第一に「子どもの心を豊かにする」というものでした。大人になるほど、ボランティアに興味を抱く事が少なくなるので、感受性の豊かな子どものうちに今回の講演のような機会を設ける事で、少しでも多くの人間がボランティ

アなどに興味を持つてくれればという事でした。そして、第二には、「いろいろな事に興味・関心を抱く心を創る」というものでした。現代では、次から次へといろいろな情報が新しく入ってきます。そんな中で、新しいものを学ぶ、生涯を通して学ぶというのは大切です。自分で考えて、自分で行動するという心を創るということでした。しかも、この事は、すぐに結果を求めるのではなく、子ども達がこれから生きていく中で、今回の講演が役に立てばいいという考えがあるようでした。

次に講演を行なった側の目的は、チェルノブイリ原発事故よりも後に生まれた子ども達に、事故の事、現在でもその事故の影響で今の自分達の生活とは違う生活をしている人がいるという事を知ってもらい、国際協力や国際理解について考えてほしいというものでした。

私は、この講演をきいて、事故の事、現地の現状を知ることが出来ました。そして、自分に出来る事が何かないか、考え直すいい機会となりました。まだ具体的に何が出来るというわけではないのですが、まずは、それを考えることが今の自分に出来ることだと思ふので、これから少しずつ考えていこうと思います。また、今回の中学校での講演によって、より多くの子ども達が自分に出来ることではないかももう一度考えてくれれば良いなと思ふました。



コンサートの抱負を語る雨野さん

雨野 会ったこともない人のために支援と言っても、現実味がしないかもしれない。少し勇気がいるかもしれない。でも、その小さな勇気で救える命があります。

困っている人に手をさしのべる事は、人間として当たり前の事。だけど、人間の一番素敵な部分だと思えます。できる事から始めていきましょう。そんな難しいことじゃない。当たり前の事を当たり前にするだけです。

◆吉本 最後に、会員の皆さんへメッセージをどうぞ。

雨野 苦しんでいる人がいます。自分たちだけではそんなに大きいことはできないから、皆さんのご協力をお願いします。

村上 あなたの何気ない言動が大きな影響を与えるかもしれません。ご協力をお願いします。

中釜 紙に書かれた文では伝わらないことが、きつとチャリティライブでは伝えられると思うので、見に来てください。

長田 僕と一緒に力を合わせて頑張りましょう。

小池 小さなことでも、みんなが集まれば大きな力になるはず。ご協力をお願いします。

吉富 チャリティライブ、成功させます。頑張ります！

徳岡 音楽を通して、小倉とチェルノブイリをつなぐ架け橋になります。ぜひお越しを！

## ご案内 チェルノブイリ・チャリティライブ 2007



「チェルノブイリ・チャリティライブ2007実行委員会」は、「クランク記念国際高等学校・小倉キャンパス」の学生たちを中心に、「九州国際大学付属高等学校」の学生も加わって構成されています。当日は彼らの他にも、チェルノブイリのチャリティに興味がある小倉で活動中のバンドも参加予定です。

現在は、バンドメンバー10名、運営メンバー約10名が集まっています。ライブに向けて、週1回くらいのペースで集まって、話し合いをしたり署名活動をしたりしています。

一見、普通の若者たち。今回、彼らと話を進めていくうちに、彼らが内に秘めている熱い想いがじわじわと伝わってきました。彼らのエネルギーを、ぜひ多くの人に感じていただきたいです。皆さまのご来場をお待ちしています！

### チェルノブイリ・チャリティライブ 2007

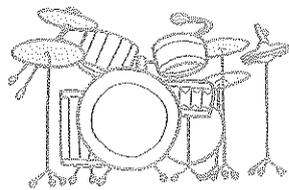
日時：11月24日(土) 16:30開場 17:00開演 20:00終演  
 場所：子どもホール(北九州市八幡区黒崎3-15-3COMCITY7階「子どもの館」内)  
 入場料：1,000円(前売り、当日とも) 定員：250名  
 出演：『Dino』、『GELATERIA』、『rutch』ほか  
 主催：チェルノブイリ・チャリティライブ2007 実行委員会  
 前売券のお求め、ご予約等はチェルノブイリ医療支援ネットワーク事務局まで。  
 E-mail: jimmu@cher9.to TEL/FAX093-203-5282

# チェルノブイリチャリティライブ ~2007~



実行委員の皆さんに、ききました♪

聞き手／吉本美貴（チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事）



11月、チェルノブイリ被災者への支援のためのチャリティライブが開催されます。実はこのライブ、企画・運営をしているのは、高校生たちなのです！平成生まれの彼らたち、なぜチェルノブイリに興味を持ち、どんな想いでライブ開催に向けて取り組んでいるのでしょうか？皆さんにインタビュー取材をしました。

## ラウンドインタビューに参加してくれた皆さん

- \* 雨野文明(あまのふみあき)さん  
実行委員長、ギター・ボーカル
- \* 村上淳紀(むらかみじゅんぎ)さん  
副実行委員長、ドラム
- \* 中蓋崇(なかがまたかし)さん  
ドラム
- \* 長田拓也(ながたたくや)さん  
ボーカル
- \* 小池史華(こいけふみか)さん  
会計
- \* 吉富麻美(よしとみあさみ)さん  
書記
- \* 徳岡yoshie(とくおかよしえ)さん  
ベース



◆吉本 事故の当時、皆さんはまだ生まれていなかったと思うのですが、チェルノブイリのことを知ったきっかけは何でしたか？

雨野 高校の先生から聞いて知りました。僕が生まれた時は、もうニュースでも報じられなくなっていて、そんなに大きな事故を知りもせずには育ちました。未だに放射能が漏れ続け、被爆に苦しむ人々がいるということを知った時は、本当にショックでした。

その後、もっと知りたいと思い、先生に頼んでチェルノブイリについての授業をしてもらいました。他にもインターネットでも調べたり、チェルノブイリを取り扱ったテレビ番組を見たりして勉強しました。権力者の判断ミスで起きた事故だということ、政府が事故を隠すために市民の避難が3日も遅れたことなどにやりきれなさを感じました！

◆吉本 チェルノブイリを知って勉強していく中で、そこからさらにチャリティライブをしようと思ったのはなぜですか？決めるまでには、どのようないきさつがありましたか？

雨野 苦しんでいる人のために何かしてあげたいと思って、自分にできることは何かと考えたんです。そうしたら僕、バンドしか取り柄がなくて…自分の音楽でチャリティライブをすることは中学生からの夢でしたし、音楽には人と人を繋ぐ力があると信じてる。

だから今回、チャリティライブをしようと思いました。

◆吉本 メッセージ性…、今回のライブを通じて、来場者の人々に伝えたいことは何ですか？

# 活動報告日記

南にイベントがあれば駆けつけベラルーシの民芸品を販売し、  
北で講演会が行われればその準備に奔走する。  
国内で、そしてベラルーシと、事務局の仕事は多種多様。そんな事務局の仕事ぶりを写真で辿る。



4月29日(日) 30日(日・祝)  
海の中道グローバルビレッジ2007

福岡在住の外国人の方々が各国の自慢料理や民芸品などを紹介・販売するイベントに、「ベラルーシ共和国」として参加しました。ブースでは、のぞみ21雑貨やコーヒー・紅茶、ベラルーシ料理などを販売しました。たくさんさんのボランティアさんに協力していただき、大盛況のうちには幕を下ろすことができました。色々な国の料理を口にごでき、大満足！



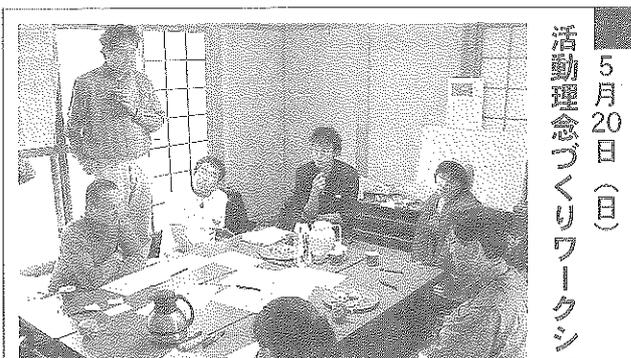
4月26日(木)  
チェルノブイリに行ったつもり学習会2007

今年4月よりスタートした学習&交流会。毎月チェルノブイリやベラルーシに関する色々なトピックを取り上げ、参加者と語り合います。初回のテーマは「チェルノブイリ原発事故の隠された真相―地震誘引説―」について話を広げていきました。8月以降もさまざまなテーマを取り扱いますので、ぜひぜひご参加ください！



5月27日(日)  
NPO・ボランティア見本市

福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」に、福岡の色々なNPO・ボランティア団体が集まり、ブース出展や活動紹介などを行いました。普段、なかなか顔を合わせることものない他団体のスタッフさんとお話できる機会もあり、収穫の多いイベントとなりました。

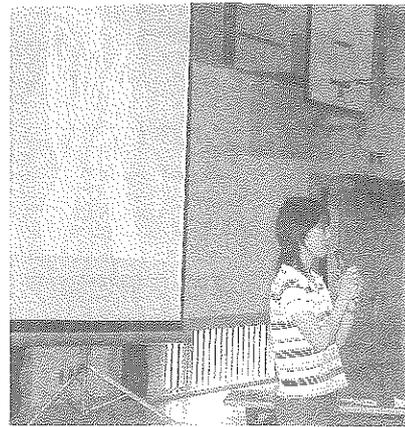


5月20日(日)  
活動理念づくりワークショップ

団体の活動理念を作り上げるワークショップを理事と事務局スタッフで実施しました。作成した理念をもとに、今後も活動を充実させていきたいと思えます。詳しくは10ページの報告をご覧ください！

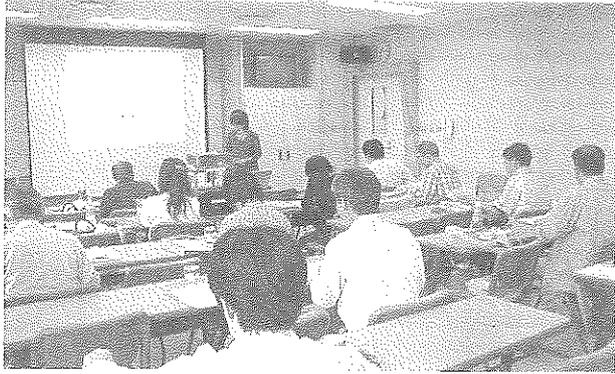
6月5日(火)

### 北九州市立石峯中学校にて講演



全校生徒の皆さんを対象に、総合学習の時間にチェルノブイリの講演をさせていただきました。講演後、たくさん生徒さんからの質問を受け、真剣に話を聞いてくださっているのが伝わってきました。(詳しくはこのページに記載されている石嶺中学校、貞池先生からの報告をご参照ください。)

### 6月13日(水) NPOマナーメント講座



NPOに関わりたい、NPO法人を設立したい、NPOで働きたいという12名の受講生を対象に、チェルノブイリ医療支援ネットワークの組織運営・資金調達、財務や今後の課題などについて報告しました。

報告後の質疑の時間では、「どのようにして寄付を呼びかけているのか」、「支援者には医療関係者が多いのか」、「仕事をしながらNPOに関わっているそうだが、職場での理解は大丈夫なのか」など、たくさん質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

6月15日(金)

### 長崎県にて出張講演

長崎県職員連合労働組合女性部の定期大会にて、活動報告をさせていただきました。長崎県職員連合労働組合女性部では、チェルノブイリ支援運動・九州(当時)の発足まもない頃から、ずっと活動を支えて下さっている団体の一つです。継続的な支援に対する感謝を伝え、改めて団体紹介、現在のプロジェクトの概要、これまでの成果と現在の課題、今後の展望などをお話させていただきました。また会場では、のぞみ21雑貨の販売や活動写真パネルの展示などもさせていただきました。

今後とも様々な地域で、普段はなかなか知ることのできない、現地の生の情報や人々の声を、支援者の方々へお返ししていきたいらと考えています。

## チェルノブイリから中学生が学んでいくこと

報告 貞池和恵(福岡県石嶺中学校、教諭)

今年で4年目になる石峯中学校と「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」とのつながりは年を追うごとに深くなっているように思われる。毎年、寺嶋さんに支援の状況などを話して頂くのだが、生徒は年々、より深い内容を質問するようになってきている。「なぜ原子力発電をやめられないのか」とか、「国は被害者に補償しようとしているのか」とか。その質問から、複雑な現実も見えてきている。

初めはチェルノブイリという地名も原子力発電事故も知らなかった生徒が、被害にあわれた方々の声をビデオレターで聞いて、つらい中でも明るく生きておられる姿に心を打たれ、生徒会を中心に募金を始めたり、ビデオで声援を送ったりして、心の支えになれるよう努力する姿が見られるようになった。さらに、インターネットで検索したり、テレビや新聞のニュースに目を通したり、関心を持って情報をとらえるようになってきている。

折しも、これを書いている今、新潟地震で原子力発電所から出ている黒煙がテレビに映っている。きっと生徒たちは関心を持ってこのニュースを見ているだろう。

今年の感想には、「それぞれの国が責任をなすりつけ合うのではなくて、被害者に対しての補償を今こそ協力し合って考えていくべきだ」、「これからはよそのことは人ごとで自分に関係ないと思うことをやめる。どこで起こったことでも、私たちに関係あることなんだ」、「チェルノブイリ原発事故の被害はまだ続いていると多くの人に知ってもらうために、家族や友達に寺嶋さんから伺ったお話を話してみることが、私たちにできる身近なことだ」など、自分のこととしてとらえ、できることを探そうとしている姿が見られるようになった。

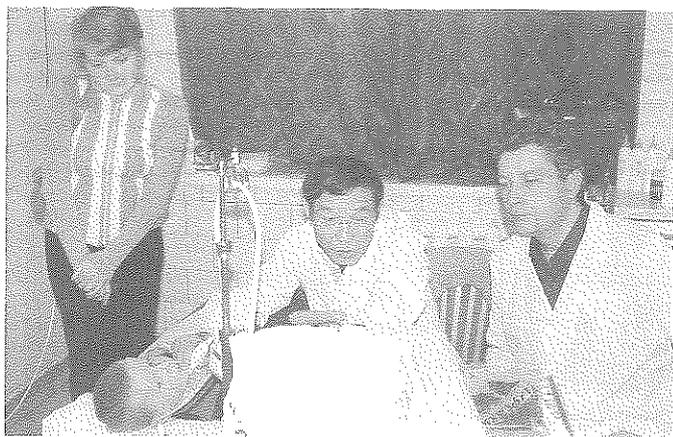
チェルノブイリのお話をきっかけにして、子供たちは周囲のことに対して、自ら考え、行動し始めている。

国際協力。人の良心が創り出す感動的な取り組みなのだ。

しかし、そうした劇的な取り組みの、さらにその向こうを見据えなければ、活動の継続は生まれない。10年を経た今、私はそう思う。

「現地の医師の手で検診を」と繰り返す山田さんは、検診プロジェクトを立ち上げる前から、そのことを分かっていた。

だから、検診のあり方について次のように語る。「甲状腺の検診は、劇的なものでなく、地道なもの。あって当たり前のものになっていけばいい。」



甲状腺ガン検診を行う武市医師とアルツール医師

## ■そして、10年が過ぎ

10年の継続の中、変化は起きた。

当初、日本の医師によって行われた「特別」な検診は、現地の医師によって行われ、現地の医師によって広められつつある。

山田さんは、昨晚ベラルーシから送られてきたという1枚の書類を私に渡す。

「これは、現地の病院から、チェルノブイリ医療支援ネットワークに要望があった医療器具のリスト。今、現地で必要とされる医療器具が書かれている。」

そのリストには、次のものが記されていた。エコー吸引穿刺アクセサリ、吸引穿刺用注射針、吸引穿刺後に貼る絆創膏。

いずれも、現地の医師が検診を日々、行っていくために必要なものばかり。

「触診→エコー診断→吸引穿刺→細胞診」という、日本の医師により伝えられた検診スタイルが、日常的に現地で行われていることを示している。

現地から日本側に要望してきた医療器具の中で、唯一高価なものだったのが顕微鏡の対物レンズ。これも山田さんによると「吸引穿刺後の病理で、細胞を見る医師が増えているから、必要なんじゃない。」

## ■様々な変化のなかで

私たちチェルノブイリ医療支援ネットワークがベラルーシでの医療検診に取り組みはじめて10年。そしてチェルノブイリ原発事故が起きてから20年以上の歳月が流れる。その間、いろいろなことが変化してきた。

以前はまともに電話が通じなかった地域でも、携帯電話で日本に連絡できるようになり、いわゆる「馬シヨンビール」しか飲めなかった酒屋でも、美味しい生ビールが飲めるようになり。総じて、ベラルーシの都市部における生活水準は向上してきた。

一方で、人々のチェルノブイリへの関心は薄れていくという変化もある。それは、ベラルーシでも日本でも同様のようだ。

その結果、日本では募金の額も減っていき、当初は年2回実施していた甲状腺ガン検診は、年1回になった。

しかし、それを補うかのようにプレスト州立内分分泌診療所のアルツール医師を中心に検診技術は受け継がれ、かつ向上していくという変化も生まれている。今では、アルツール医師は、プレスト州立内分分泌診療所の所長に就任し、甲状腺ガンの早期発見に尽力している。

甲状腺ガンの多発する年齢は、小児から20歳代の若者たちへと移行し、その対

応も必要になっていく。

こうした諸々の変化のなかで、私たちチェルノブイリ医療支援ネットワークの医療支援はどのように変化させていくべきか？

山田さんは言う。「現地の医師のレベルをさらに上げていくことが、大きな意味を持つてくる。日本の医療技術、知識を学ぶシンポジウムは、今年10月に行われる検診でも開催されるけど、日本の専門医から直接話を聞く機会が、ベラルーシ国内では珍しいこと。現地の医師には大きな刺激になりますね。」

さらに検診の内容についても「特に女性においては甲状腺、乳腺、子宮といった器官は、ホルモンが深く関係している。それらを含めた総合的な検診を現地のアルツール医師たちは取り組もうとしている。その取り組みをどうサポートしていくか。この度、10月に行われる検診のなかで、一緒に考えていきたい。」と、今秋実施されるベラルーシでの16回目となる検診の課題を山田さんは語ってくれた。

チェルノブイリ医療支援ネットワークによる国際医療支援が、最終的にベラルーシに残すものは何なのか？これからも、現地の患者、そして医師にスポットを当てて、その変化を追っていきたい。

# チェルノブイリ医療支援ネットワークへの 募金方法のご案内

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、常時、みなさまからの募金を受付けています。  
従来の郵便振替のほかにも、いろいろな募金方法が増えました！  
ご自分にぴったりの方法でご協力ください！

## 郵便振替で募金！

手数料はチェルノブイリ医療支援ネットワークの負担です。

口座番号…017701165328  
口座名…NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

会員の皆様には、これまでどおり、「チェルノブイリ通信（以下、通信）」送付時に振込用紙を同封させていただきます。（振込用紙の同封は、「思い立ったときにいつでも振込みができるように毎号入れて欲しい」というご要望にお応えしたものです。決してご寄付を強要するものではありませんので、どうぞご理解ください。）

## コンビニ振込で募金！

事務局までご希望の金額をお知らせください。セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、a m p m、ポプラなどほとんどのコンビニで利用できる振込用紙をお送りします。通信送付時に、郵便振込用紙ではなく、コンビニ用紙の同封を希望される方は、お手数ですが事務局までご一報ください。

## New♪ マンスリーサポーター方式 （郵便局自動引き落とし）

5月から郵便貯金口座からの自動引落しによる募金ができるようになりました。  
月々300円からご希望の金額を郵便貯金口座から毎月自動的に募金することができます。休止、中止、金額の変更はいつでもできます。

## 【手続きはカンタン！自動引き落とし申込方法】

1、郵便局の通帳と届け出印を持って、お近くの郵便局へ。

2、郵便局の窓口で「自動払込利用申込書」に記入・捺印する

払先加入者名…NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

払先口座番号…017701165328  
払金の種別…30

払込 H…26H  
備考…毎月〇〇円（↑300円以上を希望の場合のみ）

前回の通信送付時に同封した事務局日より見て、多くの方にお申込みいただきました結果、無事に自動引落しをスタートさせることができました。どうもありがとうございます！しかし、継続してこのシステムを維持していくためには、まだまだサポーターが不足しています。引き続き募集していますので、どうぞよろしくお願い致します！

## マンスリーサポーター増員キャンペーン！

ただいま郵便自動引き落としをお申込まいただいた方に、もれなくオリジナル「チェルノブイリポストカード（3枚セット）」をプレゼント☆

## New♪ インターネット銀行 （イーバンク）から募金！

イーバンクに口座をお持ちの方であれば、

インターネット上で24時間どこからでもご利用いただけます。

支店名…ジャズ支店（支店番号 201）  
預金科目…普通預金

口座番号…7017104  
口座名…NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

## インターネットを利用して募金！

インターネットを通して無料で国際協力できるサイトがあります。

「イーココロ」<http://www.ekokoro.jp/>

ネットショッピングや資料請求、サービス利用などで募金ポイントが貯まり、1ポイントを1円として「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」に募金することができます。ぜひご利用下さい。

「ヘそクリック」<http://www.heso-click.com/>  
各種会員登録やお買い物などでポイントが貯まり、貯めたポイントを現金や商品券に交換できます。

8月よりこの交換メニューの中に「イーココロ」参加団体への寄付が加わることとなりました。

なお、「コンビニ振込、郵便自動引き落とし、イーバンク」により、募金をいただいた方は、次号の通信より、最後のページに募金者としてお名前を記載させていただきます。記載をご希望でない方は、お手数ですが事務局までご一報ください。

# 茂くさんの喜金を

## ありがとうございます

敬称略・順不同

河野穂波 坪山美由紀 川崎巳代治 川崎幸子 井上輝美 三苫美奈子 河上由美子 関屋真理 渡邊稲子 堀晶子 めぐみ保育園職員一同 木村恵 和田政子 陶山泰枝 村上和代 泉の鯉 岡本幸恵 栗屋千恵子 ガレッジエイト 江越知佳子 上田和子 藤沢ふゆみ 川崎君子 高山幸子 井倉順子 成迫秀美 岩下育男 本岡真利子 榎本みつ枝 田中俊子 松田容子 今井涼渡辺広子 巽健・忠 福山知恵子 保坂尚子 日比野由菊子 サトウ矯正歯科クリニック 山崎末吉 中本岐余子 藤ノ原良子 岡本雅嗣 永野沙智子 杉本久三子 木村紀子 大塚厚 榊田千絵 津田瑛子 赤尾恭子 L I F E & A R T 青空東海林出紀 川原登喜の 浪江理映 山口幸子 久保カヨ子 村上しま子 金山涼子 佐々木孟 森野善郎 大庭由美子 井上敏 黒岩英子 入江種文 井上陽子 深堀ミチ子 田嶋美奈子 善光寺青木敬子 浜北香代子 荒木潔枝 立石肇 林隆子 大田澄子 眞鍋恵子 中島俊子 S t e v e & M a k i e S a b o t t a 堀江誠子 渡辺絹子 里見照子 力丸邦子 荒牧裕見子 田中香 庄籠道子 福澤保子 皆木道子 片山富美子 石川千恵子 田中友加里 大園広子 野口君子 スモール・ブライアン 森澤恵子 岡本順子 明道守弘 田村登美子 松尾美佐子 大島朋子 浅井由美子 和久貞雄 佐藤久美 杉下啓恵 宮元寿子 永井裕馬 箱田裕司 桜井美喜子 坂田裕輔 深沢尚伊 宮脇正 山田愛 宮本カズコ 沖佐和子・前田・中西・渡辺 江藤俊一 平林梨花 加茂康子 豊田昌子 廣田幸子 佐藤恵美子 案浦小百合 森本真希 伊藤まゆみ N a o F a r m 深町桂市・直子 中島幸代 安岡繁子 勝蓮夕子 志和格子 原田和代 高村久

美 松井岩美 大田昌子 太田千賀子 枝光淳子 山崎玲子 古賀教子 森下須美子 福本勅子 金子左代子 小川令美 山田司 蔵本一郎 佐村りつこ 吉永由紀子 安藤多鶴子 進藤輝幸 財津悠子 小野直子 高山篤子 浅原望樹 中西文 中本治嘉子 紙森優子 宮本美智子 熊谷章子 福壽淑子 湊本晴代 遠山祥子 松崎佳代子 松永り子 種和子 樋渡里美 手崎やよい 山根奈津子 江崎多嘉子 ピュアスピリットの風坂本祐観 井上知子 栗山美香 隅田三和 高藤富美子 米家ひとみ 西浦ちえみ 吉次マミ 長棟かおる 藤本祥子 中川節子 吉田久美子 小田久美子 石橋啓子 チェルノブイリ友の会 ほこあぼこ 菊地順子 澤田和子 グリーンコープ生活協同組合おおいだ チェルノブイリ絵画展事務局宮西いづみ 三宅哲子 桑山道子 龍神地釜とうふ工房のあん小澤聖・友佳子 水車むら農園 筑豊互助会 柳楽翼 中山たまき

(2007年3月16日〜6月30日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨、チェルノブイリ支援コーヒー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名前を紹介することをご許可いただいた方のみ掲載しています。)

### 募金内訳

3000円コース	653、500円 (27件)
5000円コース	270、000円 (53件)
10000円コース	430、000円 (37件)
「のぞみ21」カンパ	808、443円 (123件)
その他カンパ	141、250円 (38件)
合計	2、303、193円

(分割払いの方もいるので、数字は割り切れません)

### 募金者からのメッセージ 一部抜粋

●少しばかりですが役に立てて下さい。●電気をムダ使いたくないよう自分にできる事をやっています。●国を越えた絆は平和へもつながる活動です。一人でも多くの子供達が大人になれますように。●継続することが大切なことだと思います。少々ですがお役に立てます。●コーヒーを飲んで支援させていただきます。●お役にたてれば幸いです。●元気に働ける幸せのおすそわけです。●いつも通信をたのしみにしています。●以前いただいたマトリョーシカで子どもと遊ぶとき、チェルノブイリの話をしました。分かりますが伝えるのは我が子でも難しいです。みなさんの活動ははげみに、自分に喝いを入れていきます。応援しています。●いつも祈っております。●少しですが応援させていただきます。●総会報告を拝見し、地道に多くの事業を続けていらつしやることに頭が下がります。●スタッフの方々ありがとうございます。●心のこもったお働きに頭がさがります。スタッフみなさまの地道な支えこそが本当に人の命を救うのでしょうか。●細く長く応援していくつもりです。ガンバってください。●チェルノブイリは他人事とは思えません。●皆様の活動が大きな成果をあげられますようお祈りしています。●ちっちゃな愛の力ですが、大きな「わ」の力となりませうように。●早く核の時代がなくなることを願っています。●早い活動に少しでも参加できてうれしいです。●ささやかなお手伝い(?)ですが、「私にできる第1歩を——」と思います。●活動内容がすばらしいのは当然ですが、通信の充実ぶりが気になっていきます。一度チェルノブイリに行かなければ、という気になります。●心のこもったとつてもかわいいたマトリョーシカ、ありがたうございます！●平和と健康の為に。●ずっと応援していきたいと思っっています。●気持ちだけですが、お役にたてばうれしいです。●子どもたちのためにがんばって下さい。●皆さんが早く元気になりますように。●ささやかですが参加させていただきます。